

冬ノ一一表

事も詞もなきこゝちして

くちもせぬその名ばかりを留置へといめをきへて

かれのゝすゝきかたみにぞみる

そのきさらぎのもち月の比いひける

にあはせて花の都まちかき雙林寺へそうりんじへ東

山のほとりにて往生へわうじやうの期へごを待えてげり

峯へみねの桜へさくらもさかりなり異香へいきやう空に薫へくんじ

て軒端へのきばの梅にうちたぐへ音楽へをんがく雲に

ひびきて谷へたにのうくひす声へこゑをそふる時忍へにん